



未来の地球のため
私たちができること

環境活動レポート 2018

対象期間

2017年1月1日～2017年12月31日



環境省
エコアクション21
認証番号0000091

学校法人 郡山開成学園

発行日／2018年7月31日

CONTENTS

I. 郡山開成学園 環境方針

環境理念、環境方針	1
-----------	---

II. 郡山開成学園の概要

II-1 法人名及び組織	2
II-2 所在地	2
II-3 環境管理責任者及び事務局	2
II-4 学園規模	2
II-5 大学、短大・附属高校・附属幼稚園概要	3

III. 郡山開成学園における環境マネジメント

III-1 環境パフォーマンスとその関連要素	4
III-2 環境への取組分野	4
III-3 環境への負荷とその関連要素	4
III-4 環境マネジメントシステム	5

IV. 環境目標及び環境活動計画

IV-1 2017年～2019年中長期環境目標	6
IV-2 2017年環境活動計画	7

V. 環境活動結果

V-1 環境目標達成状況及び環境活動計画実施状況	
(1) 環境負荷の対前年詳細比較	8～9
(2) 環境目標の達成状況評価	10
(3) 取組結果の評価	10
V-2 トピック	11
V-3 各部門の取組み	12～16
V-4 緊急事態対応	16
V-5 郡山女子大学・同短期大学部における地域連携活動	17～18

VI. 次年度の取り組み

VII. 環境関連法規等一覧及びその遵守状況確認結果

VIII. 環境活動結果に関する内部監査及び評価

(1) 内部監査	21
(2) 代表者による全体の取組状況の評価及び見直しの結果	21

I. 郡山開成学園 環境方針

環境理念

学校法人 郡山開成学園は、教育研究をはじめとするあらゆる活動を通じ、地球環境との調和・共存と持続的に発展可能な循環型社会の構築に寄与するため、全学挙げて環境保全活動に積極的に取り組む。

環境方針

1. エコマインドを持った学生・生徒の育成並びに関連教育研究の推進

環境活動に積極的に取り組むエコマインドを持った学生・生徒の育成が急務であることから、人類の福祉及び地球環境保全に貢献できる人材を育成し、また、これらに関わる教育研究活動を行う。

2. 教育研究活動における環境負荷の削減

教育研究活動にともなう環境負荷を低減する目標に向かって、全学を挙げて、省エネルギー、省資源、廃棄物の抑制と再資源化などに積極的に取り組む。

3. 法規制の遵守

環境関連の法規制を遵守するとともに、環境汚染の予防を図り、自然環境の保全、再生に協力する。

4. 環境関連情報の公開とコミュニケーションの推進

環境理念、環境方針、環境目標、環境活動計画及びその実績等の環境関連文書やホームページ等を通じて、学内の学生、生徒、教職員や一般社会へ積極的に公開する。

5. 地域貢献

環境分野に関するボランティア活動（日本環境協会主催のどんぐりプロジェクト及び、郡山市主催のごみゼロキャンペーンへの参加、空間放射線量や食品中に含まれる放射性物質の測定、包括連携協定を締結した市町村等との連携活動、並びに学園施設の一般開放等）を通じ、地域に貢献する。

2002 年 9 月 12 日制定

2017 年 7 月 28 日最終改定

学校法人郡山開成学園

理事長 関口 修

Ⅱ．郡山開成学園の概要

Ⅱ－１ 法人名及び組織

法人名：学校法人 郡山開成学園

代表者：理事長 関口 修

■組織

郡山女子大学：学長 関口 修

郡山女子大学短期大学部：学長 関口 修

郡山女子大学附属高等学校：校長 佐々木貞子

郡山女子大学附属幼稚園：園長 賀門 康博

Ⅱ－２ 所在地

〒963-8503 福島県郡山市開成3丁目25番2号

Ⅱ－３ 環境管理責任者及び事務局

環境管理責任者／郡山開成学園 法人事務局 管財部
部長 緑川 洋一（環境委員会委員長）
TEL：024-933-1955
FAX：024-933-1955
kanzai@koriyama-kgc.ac.jp

環境委員会事務局／郡山開成学園 法人事務局 管財部
係長 安斎 文明
TEL：024-933-1955
FAX：024-933-1955
kanzai@koriyama-kgc.ac.jp

Ⅱ－４ 学園規模

学 生 数（大 学・短 大）	891 人
生 徒 数（附 属 高 校）	372 人
園 児 数（附 属 幼 稚 園）	126 人
教 職 員 数	191 人
敷 地 面 積	191,184㎡ (57,833 坪)
延 べ 床 面 積	50,948㎡ (15,412 坪)

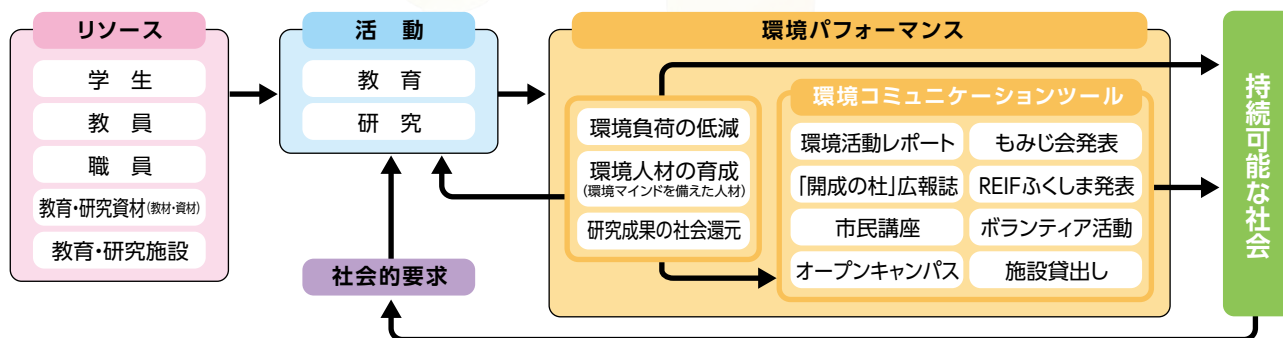
(平成 30 年 5 月 1 日現在)

Ⅱ－５ 大学、短大・附属高校・附属幼稚園概要

区分	学科・専攻等		取得できる免許・資格
大学院	人間生活学研究科 新しい時代には、新しい学問が要求されます。 「人間守護」の理念を中心に、総合的かつ専門的に学びます。		●中学校及び高等学校専修免許状（家庭）
大学 家政学部	人間生活学科 ■生活総合コース ■福祉コース ■建築デザインコース 人間守護の理念に基づき、思索を重ね人間生活を学究。 「哲学基盤をもった新しい家政学」を広く深く学び考え、創造します。		●高等学校教諭一種免許状（家庭・福祉・工業） ●中学校教諭一種免許状（家庭） ●社会福祉士・介護福祉士 ●一級建築士国家試験受験資格（実務経験2年） 及び二級建築士国家試験受験資格 等
	食物栄養学科 食品の安全性と健康維持をはかる管理栄養士を養成。 社会や食生活の多様化・国際化に対応できる総合的な指導者を目指します。		●管理栄養士（国家試験受験資格） ●栄養士免許 ●栄養教諭一種免許状 ●食品衛生管理者と食品衛生監視員（任用資格）
短期大学部	家政科 福祉情報専攻 家政学を基盤として感性を磨き、 今求められている福祉・情報の知識と技術を学びます。		●中学校教諭二種免許状（家庭） ●介護職員初任者研修課程修了証 ●社会福祉主事（任用資格） ●情報処理士④
	健康栄養学科 健康で豊かな食生活をすすめる「栄養士」と、食品業界にかかわる「フードスペシャリスト」を養成。健康で豊かな食生活のため、広い視野と教養を身につけます。		●栄養士免許 ●管理栄養士国家試験受験資格（実務経験3年） ●フードスペシャリスト受験資格 ●専門フードスペシャリスト受験資格
	幼児教育学科 尊敬・責任・自由の精神で、幼児の健全な発達を援助する重要な仕事。 柔軟な指導力、豊かな感性と情緒を持った、人間性豊かな保育者を目指します。		●幼稚園教諭二種免許状 ●保育士資格 ●社会福祉主事（任用資格）
	生活芸術科 美を求め、人間らしい心豊かな生活をめざし、美術・デザインを専門的、実践的に学びます。 純粹で鋭い感性と自由な精神で、潤いのある生活の創造を。		●中学校教諭二種免許状（美術） ●池坊華道職位免許状 ●色彩士検定（3級・2級） 等
	音楽科 ピアニストへ、声楽家へ、管弦楽奏者へ、音楽教員へ、音楽療法士へ、道が広がります。 人間生活に必要な音楽の世界を感性豊かに学びます。		●中学校教諭二種免許状（音楽） ●音楽療法士2種認定証書 （全国音楽療法士養成協議会）
	文化学科 学芸員へ、司書へ、社会教育主事へ、地域の文化のあらたなる発見と世界へ向けての発信、そして地域の文化をたえず創造しようとする人材を育成します。		●図書館司書 ●社会教育主事補（任用資格） ●学芸員補（任用資格）
	地域創成学科 地域連携教育を中心とした多様な学びにより創造力や表現力、コミュニケーション能力を伸ばし、地域の発展に取り組む力を身につけます。		●文化・歴史系：司書、学芸員補（任用資格） ●アート＆デザイン系：色彩士検定、Illustrator、Photoshop、Webクリエイター ●ビジネス・情報系：情報処理士、ITパスポート、MOS検定、日商PC、ICTプロフィシエンシー検定、社会福祉主事（任用資格）
	専攻科 文化学専攻 人間の生きた証しである歴史の知識を体系化、深化させるとともに豊かな人間性を培い、総合的な判断力を養います。		●文学士（大学評価・学位授与機構） ●社会教育主事（任用資格） ●学芸員（任用資格）
附属高等学校	普通科 個々の特性に合わせて、全教科にわたって幅広く学習します。1年次は、共通カリキュラムで学習し、基礎学力の充実を図ります。2年次からは、自分の進路や適性に合わせて、Ⅰ型（文系）、Ⅱ型（理系）に分かれて学習します。		
	音楽科 一般教科目を精選し、専門課程を強化しながら、各専攻（ピアノ、弦楽器、管楽器、声楽）に分けて、音楽の才能教育を行う県内唯一の学科です。		
	美術科 絵画、工芸、デザイン等の専門知識を深め、美に対する感覚と技術の向上を目指す県内唯一の学科です。		
	食物科 栄養、食品、食品衛生等の専門知識や高度な調理技術、技能を身につけ、食文化の継承者として地域社会に貢献する調理師を育てます。		●調理師免許
附属幼稚園	年長組 (5歳児)	やなぎ組	●お子さんをよりのばすために、一人ひとりを尊重して、それぞれの発達、個性に合わせて保育します。 ●よい成長のために大学の専門の先生と連携を取りながら保育を進め、また各教室（おとうごきことば教室、英語教室）や子育て相談（発達相談）を行います。 ●幼稚園と家庭が一体となってお子さんの成長を助けるため「父母の講座」などを行います。
		まつ組	
	年中組 (4歳児)	さくら組	
		つつじ組	
	年少組 (3歳児)	たんぽぽ組	
		すみれ組	
	2～満3歳児	つくし組	
		れんげ組	

Ⅲ. 郡山開成学園における環境マネジメント

Ⅲ－１ 環境パフォーマンスとその関連要素



Ⅲ－２ 環境への取組分野

大項目	中項目
1. 事業活動へのインプットに関する項目	1) 省エネルギー 2) 省資源 3) 水の効率的利用及び日常的な節水 4) 化学物質使用量の抑制及び管理
2. 事業活動からのアウトプットに関する項目	1) 温室効果ガスの排出抑制、大気汚染等の防止 2) 廃棄物等の排出抑制、リサイクル、適正処理 3) 排水処理 4) その他生活環境に係る保全の取組等
3. 製品及びサービスに関する項目	1) グリーン購入 2) サービスにおける環境配慮
4. その他	1) 生物多様性の保全と持続可能な利用のための取組 2) 環境コミュニケーション及び地域貢献 3) 施主・事業主における建築物の増改築、解体に当たっての環境配慮

Ⅲ－３ 環境への負荷とその関連要素

環境への負荷		もとななる活動・設備		
二酸化炭素排出	購入電力	空調、照明、〇A機器、教育研究機器		
		化石燃料	暖房（体育館）	
		灯油	ピークカット発電	
		A重油	空調、厨房	
		都市ガス	空調、風呂	
		LPガス	学園車両等	
		ガソリン	園児送迎車両等	
廃棄物排出	一般廃棄物	軽油	園児送迎車両等	
		白上質紙	教育、研究	
		新聞紙	図書館等	
		段ボール	納入品包装	
		その他の紙	シュレッダー、雑誌	
		缶	自動販売機	
		ペットボトル	自動販売機	
	産業廃棄物	厨房ゴミ	学生食堂、調理実習、寮給食	
		汚泥	グリストラップ	
		金属くず	廃自転車	
		廃食用油	調理実習	
		特別産廃	廃油	実験実習
			廃酸、廃アルカリ	実験実習
水使用		トイレ、手洗い、飲料		
化学物質		実験、実習		
物質使用（コピー用紙）		教育研究		

Ⅲ－４ 環境マネジメントシステム

■エコアクション 21 認証・登録



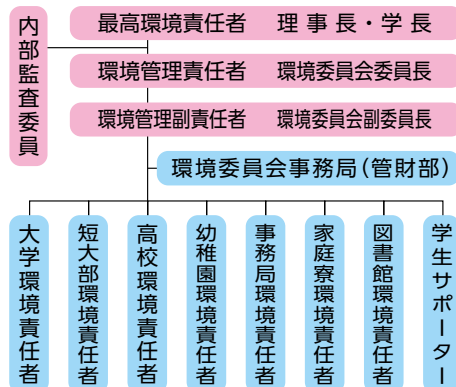
■エコアクション 21 とは

エコアクション 21 認証・登録制度は、広範な中小企業、学校、公共機関などに対して、「環境への取組を効果的・効率的に行うシステムを構築・運用・維持し、環境への目標を持ち、行動し、結果を取りまとめ、評価し、報告する」ための方法として、環境省が策定したエコアクション 21 ガイドラインに基づく、事業者のための認証・登録制度である。

本学園は 2004 年 12 月 24 日教育機関では全国初となるエコアクション 21 認証・登録を受け 2017 年に 7 回目の中間審査を完了した。



■実施体制



■役割

最高環境責任者 (理事長・学長)	- 環境方針を定め、教職員に周知する。 - 環境方針を毎年 1 月に見直し、必要があれば改訂する。 - EA21 を効率的に実施するために環境委員会、環境委員長、副委員長、及び環境委員の任命を行い実施体制を構築し、役割と責任を定め、全教職員に周知する。 - 毎年 3 月に実施体制を見直し、必要に応じて変更を行う。 - 代表者は毎年 1 月に前年度の EA21 の取組状況を評価し、全体的な見直しを行い、修正が必要な場合には環境委員会委員長に指示を行う。(年 1 回)
内部監査委員	- 毎年 11 月に環境経営システムが EA21 ガイドライン要求事項に合致しているか検証する。 - その環境経営システムに有効性があるか、また、環境経営システムに定められている活動内容が環境方針、環境目標の達成に適切なものとなっているか検証する。 - 内部監査チェックリストにより行う。
環境委員会 (委員長、副委員長、委員)	- 環境方針、環境への負荷及び環境への取組状況のチェック結果を基に環境目標を策定し、達成のための活動を行う。 - 毎年 1 月に前年度の達成状況を把握・評価し、必要により見直しを行う。 - 毎年 1 月に環境目標を達成させるための単年度ごとの環境活動計画を作成し、実行する。 3 ヶ月ごとに実施状況と実績を把握し、評価する。 - 実施状況に問題がある場合は是正処置を行い、次年度の計画策定に反映させる。
環境委員会事務局 (管財部)	- 毎年 1 月に前年度の事業活動に伴う環境負荷を調査し、「環境への負荷の自己チェック表」を完成させ、見直しをする。 - 毎年 1 月にチェック表による法令等の遵守状況を確認する。 - EA21 を適切に実行するために EA21 の意識と概要の教育及び、必要場合は訓練を実施する。 - 毎年環境活動レポートを作成し、理事長、学長の確認を得て公表する。 - EA21 の実施に必要な文章を作成し、保管する。 - EA21 の取組に係る記録等を作成する。 - 作成された記録を集め、整理し、保管する。
学生サポーター (ケチュラライフスタイル部:以下 NLS 部) (郡山女子大学エコレンジャー)	- NLS 部員は環境委員会サポーターとして環境活動に協力する。 - 郡山女子大学エコレンジャーは eco 検定受験対策講座のサポーターとして環境委員会に協力する。

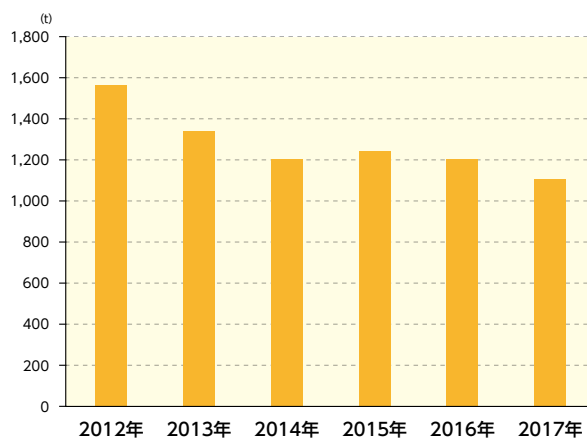
Ⅳ. 環境目標及び環境活動計画

Ⅳ－１ 2017年～2019年中長期環境目標

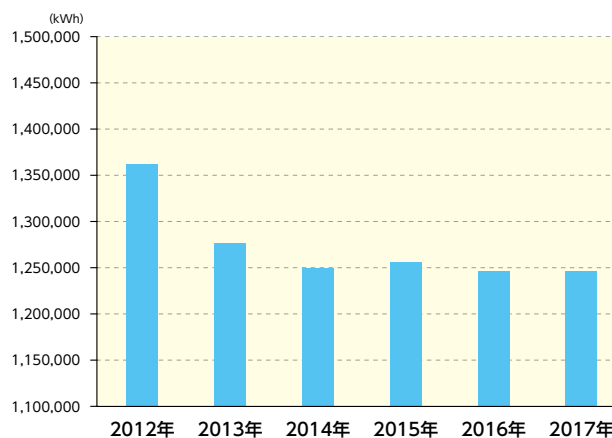
本学園は、以下7つの主項目に対し、目標値を掲げて環境活動に取り組んでいる。

項 目		単位又は区分	基準年実績	2017 年目標値 2017年1月～12月	2018 年目標値 2018年1月～12月	2019 年目標値 2019年1月～12月	
			2016 年 1月～12月	基準年比削減率%	基準年比削減率%	基準年比削減率%	
エコマインドを持った 学生、生徒の育成		eco 検定 受験講座	受講者数 10 名 合格者数 4 名	受講者数 10 名 合格者数 5 名	受講者数 10 名 合格者数 5 名	受講者数 10 名 合格者数 5 名	
		環境関連図書購 入数	環境関連図書購 入数 25 冊	25 冊	25 冊	25 冊	
		学生，生徒の環 境関連サークル 活動支援	NLS 部 部員数 35 名	35 名	35 名	35 名	
二 酸 化 炭 素 排 出 量 の 削 減	電力使用量		kWh	1,249,863	1,237,364 (-1.0%)	1,224,866 (-2.0%)	1,212,367 (-3.0%)
	化 石 燃 料 使 用 量	都市ガス	m ³	49,694	49,197 (-1.0%)	48,700 (-2.0%)	48,203 (-3.0%)
		LP ガス	m ³	81,086	80,275 (-1.0%)	79,464 (-2.0%)	78,653 (-3.0%)
	CO ₂ 排出量		Kg-CO ₂	1,179,917	1,168,118 (-1.0%)	1,156,319 (-2.0%)	1,144,519 (-3.0%)
水使用量		m ³	28,332	28,049 (-1.0%)	27,765 (-2.0%)	27,482 (-3.0%)	
紙使用量		kg	11,694	11,577 (-1.0%)	11,460 (-2.0%)	11,343 (-3.0%)	
一般廃棄物排出量 (可燃ごみ)		kg	102,970	101,940 (-1.0%)	100,911 (-2.0%)	99,881 (-3.0%)	
化学物質の適正管理		—	化学物質の 適正管理	年 1 回の保管状況 調査により適正管理	年 1 回の保管状況 調査により適正管理	年 1 回の保管状況 調査により適正管理	
グリーン調達の推進		取扱消耗品 (280 品目) のグリーン 適合品	269 品目 (96.1%)	270 品目 (96.4%)	271 品目 (96.8%)	272 品目 (97.1%)	

(電気事業者名：(株)エネット、実排出係数 0.418kg-co₂/kWh)



二酸化炭素排出合計



電力消費

Ⅳ－２ 2017 年環境活動計画

方針	目 標	目標達成手段	責任部門	スケジュール													
			実施部門	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
エコマインドを持った学生、生徒の育成	環境社会検定試験（eco 検定） 受験講座 2017 年目標 受講者目標 10 名	アドバイザーへ募集要項 を配布し学生へ呼びかけ	環境委員長 ----- 環境委員 緑川											募集	開始	受験	
	通常授業の中で環境配慮について教示する	各教員による教示	環境委員長 ----- 各教員				開始	→				開始	→				
	環境関連の新規図書購入数アップ 2017 年新規図書購入数目標 25 冊	図書委員に働きかけ	環境委員長 ----- 環境委員 和知					開始	→								
	学生・生徒の環境関連 サークル活動支援	学生・生徒へ呼びかけ	環境委員長 ----- 環境委員 會田					開始	→								
排出 二酸化 炭素 削減	電力の削減 電力量 12,499kWh 2016 年基準年比 削減率－1.0% 都市ガス、LP ガスの削減 都市ガス 497㎡ LP ガス 811㎡ 2016 年基準年比 削減率－1.0%	・節電対策 ・BEMS による見える化 （本部キャンパス） ・不要照明の消灯 ・待機電力の削減 ・クールビズ運動 （冷房 28℃） ・ウォームビズ運動 （暖房 20℃）	環境委員会事務局 ----- 管財部	説明 導入 運用 実施 策定							開始	→				開始	→
排出 廃棄物 削減	一般廃棄物の削減 一般廃棄物量 1,030kg 2016 基準年比 削減率－1.0%	・一般廃棄物削減目標説明 ・学内 LAN の有効利用 （文書の電子化 E-mail） ・裏白使用、両面コピー、 印刷の徹底 ・分別の徹底による再資源化量増加	環境委員会事務局 ----- 管財部	説明 実施 実施 実施													
節 水	水の削減 水使用量 283㎡ 2016 年基準年比 削減率－1.0%	・水削減目標説明 ・トイレ擬音装置使用の徹底 ・無駄水削減の徹底 ・漏水の早期発見	環境委員会事務局 ----- 管財部	説明 実施 実施 実施													
紙 削減 使用量	紙使用量の削減 紙使用量 117kg 2016 年基準年比 削減率－1.0%	・学内 LAN の有効利用 （文書の電子化 E-mail） ・裏白使用、両面コピー、 印刷の徹底	環境委員会事務局 ----- 管財部	説明 実施 実施													
グ リ ン 購 入	消耗品 280 品目をグリーン購入法 適合品に変更する。 2016 年基準年比 ＋1 品目	・消耗品のグリーン購入 ・家電機器、OA 機器等 はエネルギー消費効率 の高い機器を購入	管財部						○								
化 学 理 薬 品	PRTR 法対象物質 並びに毒物、劇 物の保管、管理を適正に行う	・年 1 回 PRTR 法対象物 並びに毒物、劇物の保 管、管理状況 調査を 行う。	環境委員会 管財部						○					○			
年 間 活 動 計 画	○ 環境教育 ○ 緊急事態対応訓練 ○ 環境関連法規等の遵守評価 ○ 代表者による評価と見直し ○ 環境活動レポート	環境目標、活動計画の周知 安全防災訓練 法令遵守 第三者評価 作成と地域事務局への提出	環境委員会事務局 ----- 防災管理委員会	○													○
実績：●（実践） 月次、累計とも達成○／月次又は累計が達成△／月次、累計とも未達成×																	
・ 環境管理責任者は 3 ヶ月毎に確認し、取り組みに問題がある場合は指示を行う。																	
・ 代表者は、環境管理責任者の報告を受け必要に応じて指示を行う。																	

実績：●（実践） 月次、累計とも達成○／月次又は累計が達成△／月次、累計とも未達成×

・環境管理責任者は 3 ヶ月毎に確認し、取り組みに問題がある場合は指示を行う。

・代表者は、環境管理責任者の報告を受け必要に応じて指示を行う。

V. 環境活動結果

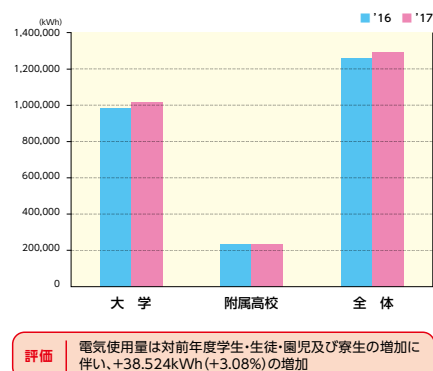
V-1 環境目標達成状況及び環境活動計画実施状況

(1) 環境負荷の対前年詳細比較

■電気使用量

2016年	(kWh)
電 気	12ヵ月計
大 学	975,176
大 学 体 育 館	11,354
つ つ じ 館	1,269
附 属 高 校	248,344
宿 泊 研 修 棟・武 道 館	13,720
計	1,249,863

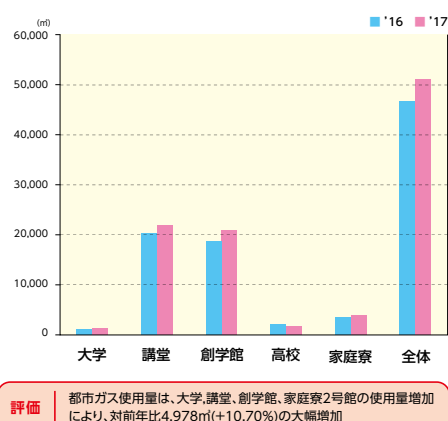
2017年	(kWh)
電 気	12ヵ月計
大 学	1,009,338 +34,162kWh +3.50%
大 学 体 育 館	12,226 +872kWh +7.68%
つ つ じ 館	1,348 +79kWh +6.23%
附 属 高 校	250,152 +1,808kWh +0.73%
宿 泊 研 修 棟・武 道 館	15,323 +1,603kWh +11.68%
計	1,288,387 +38,524kWh +3.08%



■都市ガス使用量

2016年	(m)
都 市 ガ ス	12ヵ月計
大 学	1,574
講 堂	20,321
創 学 館	18,136
幼 稚 園	53
寮 1 号 館	657
寮 2 号 館	3,613
高 校	2,153
宿 泊 研 修 棟	24
計	46,531

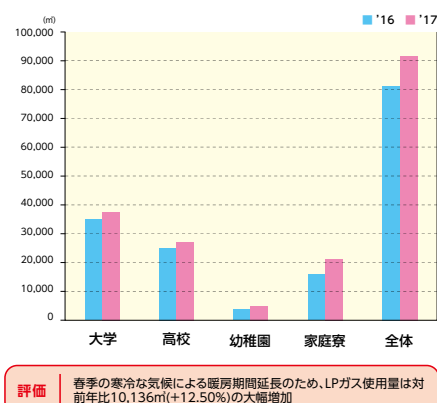
2017年	(m)
都 市 ガ ス	12ヵ月計
大 学	1,738 +164m +10.42%
講 堂	22,126 +1,805m +8.88%
創 学 館	20,865 +2,729m +15.05%
幼 稚 園	44 -9m -0.17%
寮 1 号 館	663 +6m +0.91%
寮 2 号 館	4,010 +397m +10.99%
高 校	2,054 -99m -4.60%
宿 泊 研 修 棟	9 -15m -62.50%
計	51,509 +4,978m +10.70%



■LPガス使用量

2016年	(m)
LP ガ ス	12ヵ月計
創 学 館	404
6 2 年 館、8 3 年 館	15,696
本 館、芸 術 館	19,834
幼 稚 園	4,081
家 庭 寮	15,816
普 通 教 室 東 西 棟	9,951
特 別 教 室 東 西 棟	12,393
管 理 棟	2,911
計	81,086

2017年	(m)
LP ガ ス	12ヵ月計
創 学 館	406 +2m +0.5%
6 2 年 館、8 3 年 館	16,311 +615m +3.92%
本 館、芸 術 館	21,421 +1,587m 8.00%
幼 稚 園	4,743 +40m +0.98%
家 庭 寮	20,683 +4,867m +30.77%
普 通 教 室 東 西 棟	10,879 +928m +9.33%
特 別 教 室 東 西 棟	13,727 +1,334m +10.76%
管 理 棟	3,052 +141m +4.84%
計	91,222 +10,136m +12.50%



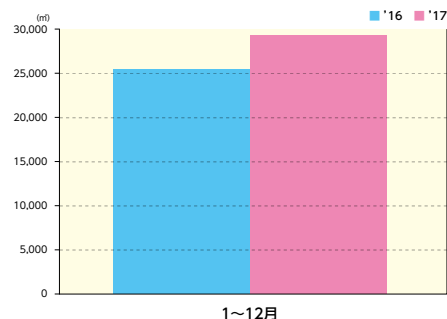
■水使用量

2016年 (m)		2017年 (m)	
使用箇所	使用量	使用箇所	使用量
市水	945	市水	717
専用水道	27,387	専用水道	30,215
計	28,332	計	30,932

-228m
-24.13%

+2,828m
+10.33%

+2,600m
+9.18%



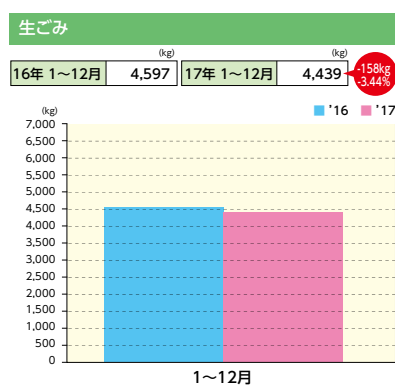
評価 学生・生徒・園児及び寮生の増加に伴い、水使用量の対前年度比2,600m(+9.18%)の増加

■一般廃棄物排出量



評価 リサイクルのマンネリ化により、一般廃棄物量の対前年度比360kg(+0.35%)の増加

■生ごみ処理量



評価 寮給食の食べ残し防止対策により、生ごみ処理量の対前年度比158kg(-3.44%)の減少

■紙使用量

2016年

サイズ	枚数	重さ (kg)
A3	265,500	2,124
A4	1,620,000	6,480
B4	380,000	2,280
B5	270,000	810
計	2,535,500	11,694

2017年

サイズ	枚数	重さ (kg)
A3	303,000	2,424
A4	1,645,000	6,580
B4	360,000	2,160
B5	225,000	675
計	2,533,000	11,839

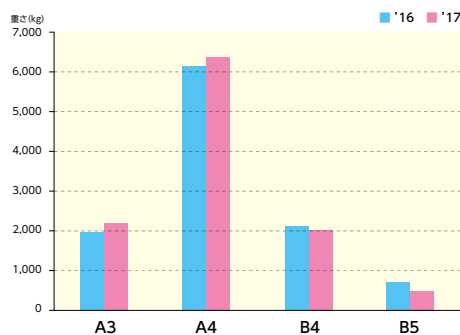
+300kg
+14.12%

+100kg
+1.54%

-120kg
-5.26%

-135kg
-16.67%

+145kg
+1.24%



評価 A3・A4サイズの使用の増加により、対前年比145kg(+1.24%)の増加

(2) 環境目標の達成状況評価

2017 年における環境目標の達成状況は、下表のとおり。エコマインドを持った学生、生徒の育成については、eco 検定受験対策講座、環境関連図書購入及び NLS 部の部員数に係る環境目標は達成したが、環境負荷の削減に係る環境目標については、CO₂ 排出量、水使用量、紙使用量及び、一般廃棄物排出量は対前年比を超過した。又、化学物質の適正管理、及びグリーン調達推進の推進に係る環境目標を達成した。

表：環境目標及びその達成状況（期間 2017 年 1 月～12 月）

項 目		単位又は区分	基準年実績	2017 年目標値 2017 年 1 月～ 12 月	2017 年実績 2017 年 1 月～ 12 月	達成状況 達 成 ○ 未達成 ×	
			2016 年 1 月～ 12 月	基準年比削減率%			
エコマインドを持った 学生、生徒の育成		eco 検定受験講座	受講者数 10 名 合格者数 5 名	受講者数 10 名 合格者数 5 名	受講者数 15 名 合格者数 5 名	○	
		環境関連図書購入数	25 冊	25 冊	25 冊	○	
		学生、生徒の環境関連 サークル活動支援	NLS 部員数 35 名	35 名	35 名	○	
排出量削減 二酸化炭素	電力使用量	kWh	1,249,863	1,237,364 (－ 1.0%)	1,288,387 (+ 4.1%)	×	
	化石燃料 使用量	都市ガス	m ³	49,694	49,197 (－ 1.0%)	51,509 (+ 4.7%)	×
		LP ガス	m ³	81,086	80,275 (－ 1.0%)	91,222 (+13.6%)	×
		CO ₂ 排出量	Kg-CO ₂	1,179,917	1,168,118 (－ 1.0%)	1,238,205 (+ 5.8%)	×
水使用量		m ³	28,332	28,049 (－ 1.0%)	30,932 (+10.3%)	×	
紙使用量		kg	11,694	11,577 (－ 1.0%)	11,839 (+ 2.3%)	×	
一般廃棄物排出量 (可燃ごみ)		kg	102,970	101,940 (－ 1.0%)	103,330 (+ 1.4%)	×	
化学物質の適正管理		－	化学物質の 適正管理	年 1 回の保管状況 調査により適正管理	年 1 回の保管状況 調査により適正管理	○	
グリーン調達の推進		取扱消耗品 (280 品目) のグリーン適合品	269 品目 (96.1%)	269 品目 (96.1%)	269 品目 (96.1%)	○	

(3) 取組結果の評価

1. エコマインドを持った学生、生徒の育成

① eco 検定受験講座

平成 24 年に再開した eco 検定受験講座の見直しを行い、演習を中心とした方式として、15 名が受講し 6 名が第 23 回 eco 検定試験を受験したところ 5 名が合格し環境目標を達成した。

② 環境関連図書購入数は、25 冊で対前年度比同数となり環境目標を達成した。

③ 学生、生徒の環境サークル活動支援

NLS 部部員数を 35 名に増員する目標に対して、部員数は 35 名で、環境目標を達成した。

2. 二酸化炭素排出量の削減

二酸化炭素排出量に係る環境目標を、基準年実績 1,179,917kg-CO₂ の 1.0%減の 1,168,118kg-CO₂ 以下とした。実績は、1,238,205kg-CO₂ で対前年比 5.8%の増加となり環境目標を達成できなかった。

3. 水使用量の削減

水使用量に係る環境目標を、基準年実績 28,332m³ の 1.0%減の 28,049m³以下とした。実績は、30,932m³で対前年比 +10.3%の増加となり環境目標を達成できなかった。

4. 紙使用量の削減

紙使用量に係る環境目標を、基準年実績 11,694kg の 1.0%減の 11,577kg 以下とした。実績は、11,839kg で対前年比 +2.3%の増加となり環境目標を達成できなかった。

5. 一般廃棄物排出量の削減

一般廃棄物排出量に係る環境目標を、基準年実績 102,970kg の 1.0%減の 101,940kg 以下とした。実績は、103,330kg で対前年比、+1.4%の増加となり環境目標を達成できなかった。

6. 化学物質の適正管理

化学物質に係る環境目標を、毒物・劇物、向精神薬、核原料物質、病原性微生物、PRTR 対象物質、危険物等化学物質の保管状況を各関係法に則り厳格に管理している。

実績は、化学物質取扱者と円滑なコミュニケーションを取りながら各関係法に則り厳格に管理する事ができ環境目標を達成できた。

7. グリーン調達推進

グリーン調達に係る環境目標を、購買部取扱い消耗品類 280 品目中 270 品目 (96.4%) をグリーン購入適合品にすることとした。実績は、269 品目 (96.1%) がグリーン購入適合品となり、環境目標を達成した。

V-2 トピック

■若手・女性研究者奨励のための寄付金付自動販売機設置

日本私立学校振興・共済事業団が創設した「若手・女性研究者奨励金」に賛同し、家政学館 1 階実習食堂前に寄付金付自動販売機を設置した。水等の常温販売を加えることによって、従来の自動販売機より省エネとなった。



■創学館 531 ～ 534 講義室・図書館閲覧室へ LED 照明導入

稼働率の高い創学館 531 ～ 534 講義室及び、図書館閲覧室の蛍光灯を LED 照明へ更新し、消費電力量の削減を図った。



■大学主要校舎トイレの洋式化工事（3 ヶ年計画の最終年）

大学キャンパス内の和式トイレを洋式トイレに更新し、水使用量の削減を図った。

来年度は、附属高等学校の和式トイレを洋式化する。



■附属幼稚園各保育室トイレを節水型へ更新

附属幼稚園各保育室のトイレを節水型へ更新し、水使用量の削減を図った。



■タンクステンコートによる貯水槽再生（創学館）

FRP 貯水槽は紫外線に弱く、経年劣化により更新を余儀なくされていたが、タンクステンコートの施工により貯水槽が強化され、産業廃棄物の発生を抑え、省資源化に繋がった。



V-3 各部門の取組み

■ 郡山女子大学

生活を幅広く専門的に学ぶ生活総合コースでの環境を考えた授業の事例を紹介する。

1. 「**衣生活概論**」では、所有被服と死蔵被服（1年間未着用）の実態調査を実施し、その結果から環境を考えた衣生活を学修しています。すなわち、被服の選択・購入、着用、手入れ・洗濯、保管、リサイクルという被服のライフサイクルの各段階において省資源、省エネルギー、環境負荷低減を目指すための行動をピックアップし、「地球規模で考え、足元から行動する」ことの大切さを確認している。また、「**被服学実験**」の授業では、あまり布と調理学実習のアサリのすまし汁のアサリを用いて「貝殻のストラップ」づくりなど、「もったいない」の意識の醸成を図っている。



2. 「**調理学実習**」では、実習授業の中で、環境負荷を低減する行動を学修している。具体的には、出し汁をとった後のカツオ節や昆布、煮干しで佃煮をつくること、余った食材を活用して新たなレシピを作ること、油污は紙で拭きとった後に洗う、食器等の漬け置きや洗い桶での洗浄で節水すること、環境保全を意識した行動を家庭で習慣として実践することをめざしている。



① 昆布出しをとった昆布と煮物



② イワシの佃煮



③ 余った卵白でラングドシャ



台所からの水質汚染防止や節水対策行動

● 猪苗代湖裏磐梯湖沼地域の水質調査

猪苗代湖とその周辺は美しい自然が残っており、多様な生態系がみられる。今回初年度となるこの事業（平成29年度「きらめく水のふるさと磐梯」湖未来（みずみらい）基金水環境保全活動支援事業）では生物と微生物、水質の物理化学的性質の調査から、猪苗代湖と裏磐梯湖沼地域の自然環境をより深く理解することを目的とした。

水質調査は平成29年7月、8月および10月に、猪苗代湖流入河川（長瀬川および小黒川）と猪苗代湖水（翁島港、湖南港および鬼沼）、猪苗代湖の入り江である鬼沼上流域の5つの貯水池（福島県郡山市湖南町舟津）で、水質の物理化学的項目、植物の調査および生息生物を調査した。

pH（図1）が水質環境基準6.0を下回り酸性を示したのは猪苗代湖流入河川である長瀬川と湖水の調査地点である鬼沼であった。次に導電率および酸化還元電位（図2）は水の酸化度が高く好気的な長瀬川、嫌気的で水が腐敗傾向の小黒川、そして他の地点の酸化還元電位および導電率は長瀬川と小黒川の中位に位置づけられた。また、鉄イオンおよび硫酸イオン（図4）の濃度は導電率および酸化還元電位と同じ傾向が認められた。

猪苗代湖および流入河川の生物栄養因子（図4）は全体にカリウム量が高い傾向が認められ、特に小黒川で高値を示した。同様に鬼沼上流域の人工池と猪苗代湖水である鬼沼の生物栄養因子（図5）をみると、鬼沼上流域の人工池ではカリウムは検出されなかったが、鬼沼ではカリウムが検出された。鬼沼上流域と鬼沼の間には水田があることから、土壌へのセシウムの吸収を抑制するために一定基準のカリウムを施肥しており、カリウムが河川や湖に溶出していると考えられた。同様の傾向は猪苗代湖および流入河川の調査地点でも認められた。また、鬼沼上流域から鬼沼で全窒素が増加していることから、畜産排水の影響が危惧された。

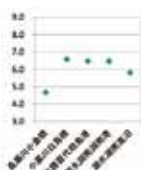


図1 pH

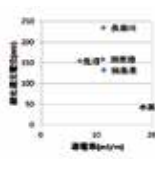


図2 酸化還元電位
および導電率

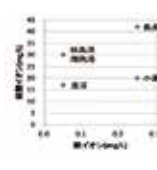


図3 硫酸イオン
および鉄イオン

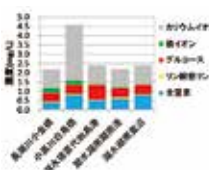


図4 生物栄養因子
(猪苗代湖と流入河川)

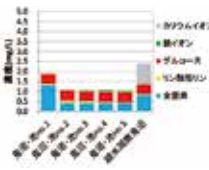


図5 生物栄養因子
(鬼沼と鬼沼上流域)



写真1 鬼沼の水質調査と里山
観覧会（平成29年8月27日）

この研究内容は猪苗代湖・裏磐梯湖沼水環境保全対策推進協議会主催の猪苗代湖・裏磐梯湖沼～水環境フォーラム（平成29年11月21日実施）にて事例報告を行った。

■ 郡山女子大学短期大学部

短期大学部ではエコマインドを持った学生、生徒の育成並びに関連教育研究の推進、教育研究活動に伴う環境負荷の削減、地域貢献を目的として、授業の中に環境教育を取り入れています。それぞれの学科での取り組みを報告する。

● 家政科福祉情報

ボランティア活動授業の中に開成山大神宮、大学周辺の清掃活動を実践し、身近な環境問題を体感した。

● 健康栄養学科

集団給食実習でエコクッキングを実施し、廃棄量をできるだけ抑えた食材の使い方をしている（廃棄量の記録）。調理実習などの授業で生じた野菜の切れ端などを循環型のリサイクルポットで処理している。又、食物の生産がどのように行われているのかを体験を通して学んでいる。

● 幼児教育学科

5月～10月 83年館前の花壇の整備（ガーデニング同好会）、6月28日 附属幼稚園でのサツマイモの植え付け（卒研の一環）、7月21日 ペットボトルを再利用した浮沈子作り（生活と環境の授業の一環）、12月1日 附属幼稚園でのサツマイモのツルを利用したクリスマスリース作り（生活と環境の授業の一環）を行った。

● 音楽科

楽譜等のコピーは必要最小限行い、不要になったコピー用紙はリサイクルしている。日頃から練習室での電気、エアコンのスイッチオフを指導している。又、芸術館中庭の清掃活動をし、環境維持に努めている。

● 生活芸術科

授業の中で、ごみの分別、コピー用紙の節約、自然を素材とした授業の実施を行い、環境保護教育の啓発に努めている。

● 文化学科

環境教育関連科目である「民俗学Ⅰ・Ⅱ」「考古学Ⅰ・Ⅱ」「地域文化論Ⅰ・Ⅱ」「基礎ゼミ（国内研修）」で地域の環境と人々の生活について知見を深める授業を行っている。

「地域文化論Ⅰ・Ⅱ」では「郡山の公園」を取り上げ、各専攻分野からの公園の成立過程、活用状況などフィールドワークを通して研究し、その成果をもみじ会で発表した。

● 専攻科文化学専攻

「日本の考古学」「考古学特論」「考古学演習」では短期大学で学んだ考古学の基礎をもとにして実際の研究成果を学び、演習では発掘調査に参加し、資料整理、分析を行う。「文化人類学」は放送大学開講科目であるが、人類と環境の関係について学んでいる。



【幼児教育学科】



【幼児教育学科】



【音楽科】



【生活芸術科】



【文化学科】



【文化学科】

■ 郡山女子大学附属高等学校

● 高校における環境活動…整備委員会の生徒たちが中心に自発的にできるエコ活動について話し合い、全校生に呼びかけ取り組んできた。

① 節水・節電…ポスターによる啓発や LED 照明導入



② リサイクル活動…紙、空缶、ペットボトルのリサイクル キャップ回収による子どもポリオワクチン活動



③ 食育活動…農業体験、 減るしいレシピコンクールへの出展



④ 花壇への花の植栽



⑤ 地域の行事（うねめ祭り）への参加



■ 郡山女子大学附属幼稚園

● 幼稚園の取り組み

○プランターで野菜の栽培



○はじめての田植え



○収穫を楽しむ



○子どもたちにとっては「自然」も遊び道具！



○キッズガーデン参加



○グリーン カーテン



■ 家庭寮

● 家庭寮の取り組み

下記 7 項目について寮生・職員共に協力し取り組んでいる。



■ 寮生数

寮生数（許容数）	1号館（36名）	2号館（80名）	合 計（116名）
大学生	18名	8名	26名
短大生	16名	30名	46名
高校生	—	19名	19名
計	34名	57名	91名

①節電・節水の呼びかけ

設置器具は全て省エネ対応となっている。
必要のない電気は消す、コンセントを抜くことで更に節電した。



②「エコキャップ」収集運動への参加

今年度で 8 年目の活動となる。



③ゴミの分別



④古紙回収ボックスの設置

購買雑誌リユース



⑤環境対策

- ・寮内美化（毎日の清掃、大掃除の実施）
- ・屋内消毒（年 3 回業者により実施）
- ・排水溝清掃（年 4 回業者により実施）
- ・玄関前プランター植栽



⑥安全管理

- ・避難訓練の実施
春季（7:00 発令）、秋季（19:20 発令）
- ・放射線対応
空間線量測定（開寮中実施し、数値を掲示する）
- 食品検査（学園のゲルマニウム半導体分析装置による）



⑦エコアンケートの実施

集計結果	1 位	2 位	3 位
はじめに思いつくエコは？	エコバック	ゴミの分別	節 電
実践しているエコは？	節 電	リサイクル	省エネ
寮でもっと取り組みたいエコは？	エコキャップ	ゴミの分別	節 電

アンケートの集計結果を今後の活動に取り入れていきたい。
2017 年度エコアンケートより、寮でもっと取り組みたいエコは？において第 3 位の「グリーンカーテン」について実施し、玄関前フェンスに朝顔を植栽した。次年度は、朝顔に加えフウセンカズラの植栽を予定している。

☆冬季には、フェンスにイルミネーションを取り付けた。



〈冬季の様子〉

■ 大学図書館

大学図書館では 2010 年度より継続して、3 年から 5 年の保存期間が終了した雑誌、寄贈パンフレット、重複した寄贈図書などを利用者へ提供することによって廃棄資料の活用を図るとともに図書館から出る廃棄物の減量を図ることを目的とし、「雑誌リサイクル・リユース」を実施している。2017 年は合計 2 回実施し、学内では 1 月 25 日から 2 月 3 日まで図書館 2 階ロビーで開催した結果、学生、教職員が全体の約 3 割程度を利用し、前年度好評を得たもみじ会に合わせた「雑誌リサイクル市」では、学内はもとより学外の方に利用していただいた。

3 年目の実施となるグリーンカーテンは、郡山開成学園環境委員会、管財部に加え、近隣住民の方のご協力もあり、アサガオ、フウセンカズラ、ゴーヤの三種類の植物を育成した。日陰を作って図書館棟の室内温度を下げるとともに、二酸化炭素の吸収の一助ともなった。アサガオ、フウセンカズラについては実った種を図書館アルバイト学生の協力により袋詰めし、もみじ会来訪者や図書館利用者へ提供することもできた。

■ 開成の杜の樹木生育状況について

開成の杜	面積 (ha)	樹種	本数	植樹年月日	樹高	水質浄化量	CO ₂ 吸収・固定量
鞍手山	1.45	ヒノキ	5,000 本	平成 8 年 5 月	約 13.0 m	592m ³ /年	7 トン/年
石 筵	2.77	ヒノキ	7,000 本	平成 15 年 5 月	約 8.0 m	769m ³ /年	7 トン/年
高 土 山	1.21	スギ	4,300 本	平成 13 年 10 月	約 15.0 m	565m ³ /年	7 トン/年
安子ヶ島	1.47	ヒノキ	5,000 本	平成 20 年 5 月	約 6.0 m	402m ³ /年	8 トン/年
計	6.90		21,400 本			2,328m ³ /年	29 トン/年



鞍手山



石筵



高土山



安子ヶ島

V-4 緊急事態対応

■ 避難訓練（福島県沖で大地震が発生し震度 5 強の大地震が 15 秒後に到着する）

福島県沖で大地震が発生し、緊急地震速報装置では、震度 5 強の大地震が 20 秒後に到着する。激しい振動により家政学館 1 階調理実習室より出火したとの想定のもと、①大地震発生時の身の安全確保訓練並びに②出火時の避難訓練（建屋毎の分散避難）を行った所、短時間（4 分～8 分）で避難完了した。

避難完了後、学長等による講評を行い、解散した。



■ 緩降機（スローダン）を利用した緊急避難訓練

火災により、廊下、階段に炎や煙が充満し、避難経路が経たれた場合を想定し、緩降機（スローダン）を組み立てて、窓開口部から緊急避難を行う。



V-5 郡山女子大学・同短期大学部における地域連携活動

■ 本宮市との包括連携協定締結

平成 28 (2016) 年 11 月 3 日に本宮市と人材育成や人材確保、幼児教育や文化、芸術、健康福祉の増進など 5 項目について包括連携協定を締結し、本協定により、学生フィールドワークや市の産品を使った六次化商品の開発等を協力して進めている。



■ 葛尾村との包括連携協定締結

平成 28(2016) 年 12 月 6 日に葛尾村と震災からの復興に関する包括連携協定を締結し、六次化商品の開発や幼児教育支援等を進め、住環境の充実を図っている。



■ 福島さくら農業協同組合との包括連携協定締結

平成 28(2016) 年度に J A 福島さくらと農業の振興や教育及び人材育成に食文化の振興、健康、福祉の振興など 5 項目について包括連携協定を締結し、相互に緊密に連携し、双方の資源を有効に活用した協働による活動を推進している。



■ 小野町との包括連携協定締結

平成 29(2017) 年 8 月 21 日に小野町と子育て、人材育成、健康栄養及び福祉の増進など 6 項目について包括連携協定を締結し、活気にあふれ、安全で安心して生活できるまちづくりを協力して進めている。



■ 郡山市との事業連携

平成 21 年 3 月 13 日に本学は、郡山市こども総合支援センター「ニコニコ子ども館」実施事業との連携協定を締結し、学生が「少人数での見守り実習」や、「夕涼みコンサート」・「ニコニコ子ども館まつり」等のボランティア活動を継続している。



■ 福島民報社との事業提携

平成 29(2017) 年 2 月に福島民報社と連携協力協定を締結し、新聞等を活用したキャリア教育の支援、地域課題等に関する共同調査及び研究、人材交流及びインターンシップの実施、教育研究のための新聞記事情報の活用支援等の分野において連携協力を進めている。

■ 大学施設の開放

東日本大震災以降、市内の公共施設が避難所等に当てられ、使用ができなくなったことを受け、地域貢献の観点から、本学施設を学園休業日に外部団体の大会・イベント・検定試験会場等として幅広く大学施設の貸し出しをしている。

〈過去 3 年間の利用者数〉

	2015 年	2016 年	2017 年
利用者数	31,974 人	29,502 人	27,721 人



■ 生涯学習講座

本学では、「学ぶことは生涯の仕業」の理念のもと、地域女性を対象として科目の開放を大学・短期大学部が共同で実施している。この生涯学習講座としての科目開放は、平成 29(2017) 年度で 33 年目となる。平成 29(2017) 年度には、前期に 18 講座が開放され延べ 42 人が受講し、後期に 12 講座が開放され延べ 35 人が受講した。

■ 国際交流特別講座

本学では 21 世紀の国際化に対応するため、英語・中国語・日本語、それぞれのことばを楽しく学ぶことを通して、ことばと文化への理解を深め、コミュニケーション能力を高め、あわせて本学園の国際性の発展を図ることを目的として、平成 14(2002) 年度前期より「国際交流特別講座」を開講している。平成 29 (2017) 年度には前期 44 人、後期 36 人が受講した。

■ KGCサマーリフレッシュプログラム（教員免許状更新講習）

平成 19(2007) 年 6 月の改正教育職員免許法の成立により、平成 21(2009) 年度より教員免許状更新講習制度が開始された。本学では 21(2009) 年度より、KGC サマーリフレッシュプログラム（教員免許状更新講習）を開講している。毎年バラエティに富んだ幅広いプログラムと熱心な本学教員の講義は、免許更新を迎えた教員の多くから、単に知識の再確認に留まらず、改めて学ぶ喜びを体得したと好評を得ている。

平成 29(2017) 年度も、「中高教員向け講座」88 人、「幼稚園教諭向け講座」121 人の合計 209 人が受講した。

■ 地域連携推進室の設置

平成 28 (2016) 年度に、「産学官との連携強化」、「地域活性化」、「施設の一般開放」を推進する窓口として「地域連携推進室」を法人事務局 管財部内に設置して、地域への人的資源の提供や、教育成果を還元するための橋渡しを行っている。

■ 公開講座

平成 29(2017) 年度、一般市民を対象とした市民講座・市民フォーラムが大学・短大併せて 7 回開講され、大学 170 人、短大 280 人 計 450 人が参加した。尚、食物栄養学科主催の市民フォーラムは、現在までに 14 回実施した。

■ 産学連携・受託事業

平成 29(2017) 年度に教員が参加した産学連携・受託事業は、13 件（①青葉旅館の登録有形文化財指定に向けた調査、②国見町における石造建造物・石造技術調査、③山形県旧高畠駅舎群建物測量調査、④福島建設業協会建設現場見学会、⑤国見町石工フェス in 石蔵、⑥氷蔵庫における農林水産物の保存に関する共同研究（以輪富）、⑦減塩しょうゆの活用による塩分摂取量低減及び減塩しょうゆの味慣れに関する共同研究（キッコーマン）、⑧小野町産米と石垣島の塩を用いた塩麴を使った黒にんにくまん・ドレッシングの商品開発、⑨日本原子力産業協会主催 量子放射線利用の理解促進及び放射線教育の普及充実のための見学、⑩水未来基金水環境保全活動支援事業における猪苗代湖鬼沼周辺の里山の自然環境観察会、⑪日本原子力開発機構と連携し、市民への放射線に対する正しい知識の普及とホールボディカウンター車による内部被曝測定と結果説明、⑫日本環境協会主催プロジェクト D における福島ふれあいの森での植樹活動。⑬ふくしま復興再生可能エネルギー産業フェアにおける本学の環境活動等の説明であった。



②国見町における石造技術調査



③旧高畠駅舎群建物測量調査



④建設現場見学会



⑥小野町ヘルスアップ教室



⑪放射線リスクコミュニケーション事業



⑫プロジェクト D 植樹活動

Ⅵ. 次年度の取り組み

- (1) エコマインドを持った学生生徒の育成（eco検定対策講座の開催等）
- (2) 地域貢献（環境に関するボランティア活動への参加・学園施設の開放等）
- (3) 環境負荷の低減（主要校舎等のLED化）

Ⅶ. 環境関連法規等一覧及びその遵守状況確認結果

表：環境関連法規等一覧兼遵守状況確認結果

判定→遵守、対応済：○ 未実施、抜けあり：×

法規制等の 名称	該当する要求事項	法令条項	該当する 設備・項目	点検・測定頻度 実施時期	届出・報告				関連部門	遵守評価	
					許可	届書	資格	届出先		証拠	判定
産業廃棄物処理法	一般廃棄物排出者の収集・運搬委託	第6条の2第6、7項 規則第1条の17、18	一般廃棄物 (紙や木屑)	1回/年 (平成29年4月1日更新)					管財部	許可証	○
	産業廃棄物排出者の収集・運搬委託	第12条3、4項	産業廃棄物 (廃油、廃酸、 廃アルカリ)	契約書/ 許可書につき 1回/年 処分場変更に 伴う覚書 (平成29年10月1日締結)					管財部	契約書 許可証	○
	保管基準 60cm×60cm 以上の表示 飛散、浸透防止、 衛生管理	第12条2項、 規則8条		マニフェスト新規 交付票 1回～2回/年 (平成29年3月28日 平成29年6月2日 平成29年9月1日 平成29年12月1日)						マニフェスト	○
	マニフェスト交付 A、B2、D、E票 の保管(5年間) D票90日、E票 180日以内に送付 されない場合は、 30日以内の知事 への報告	12条の3 規則8条の21、 22、24								報告書	○
	産業廃棄物管理票 交付等 状況報告書の提出	12条の3第6項	汚泥・廃油	1回/年 (平成29年5月24日届出)		○		郡山市長			
建築基準法	特殊建築物 定期調査報告書	12条第1項	大学主要校舎8棟 25,647㎡ 高 校 1棟 10,557㎡ 家庭寮 2棟 3,497㎡ 放送大学福島 学習センター1棟 546㎡	1回/3年 (平成27年9月29日収受)		○		郡山市長	管財部	報告書	○
	建築設備定期検査 報告書	12条第3項	大学主要校舎設備8式 高校校舎設備1式 家庭寮設備2式 放送大学福島 学習センター設備1式	1回/3年 (平成27年9月29日収受)		○		郡山市長		報告書	○
消防法	消防用設備等(特 殊消防用設備等) 点検結果報告書	17条3の3	本館他16棟の消 防用設備(特殊消 防用設備等)の保 守点検結果	1回/1年 幼稚園のみ2回/年 (平成29年6月5日届出)		○		郡山 消防 署長	管財部 環境保全室	報告書	○
	危険物の安全管理 (A重油)	11条、 10条第3、第4項 13条	指定数量以上の危 険物を貯蔵又は取 扱う場合。施設の 構造は、「技術上 の基準」を遵守。 危険物取扱者の設 置。	1回/月 地下タンク貯蔵所 (A重油) 10,000ℓ 1ヵ所 (毎月月末点検)	○				管財部 環境保全室	自主 点検票	○
組合火災予防条例	危険物の安全管理 (灯油)	38条 54条	少量危険物(指定 数量の1/5以上) ・貯蔵・取扱い基 準の遵守 ・届出	(白灯油) 450ℓ 以下3ヵ所 (毎月月末点検)		○		郡山 消防 署長	管財部 環境保全室	届出書	○

法規制等の 名称	該当する要求事項	法令条項	該当する 設備・項目	点検・測定頻度 実施時期	届出・報告				関連部門	遵守評価	
					許可	届書	資格	届出先		証拠	判定
大気汚染 防止法	平成 28 年度ばい 煙量などの自主測 定結果	16 条	講堂都市ガス炊き 冷温水発生機の稼 働実績	1 回／3 年 (平成 29 年 6 月 11 日届出)		○		環境省 水・大気 環境局	管財部	調査票	○
下水道法	特定施設 (洗浄施設) の 安全管理	5 条第 1 項	家 政 学 館 3 階 理化学実験室 (大 学)、特別教室棟 1 階 No.3 理 科 室 (高校) 実験用廃液	1 回／3 年 廃油、混合水溶液、 18ℓ ポリ容器又は ガラス瓶 (平成 27 年 10 月 30 日調査)	○				管財部	マニフェスト	○
水質汚濁 防止法	構造等に関する基 準遵守義務	12 条の 4、規則 9 条 2 の 2、2 の 3	本館 3 階薬品庫	1 回／3 年 (平成 27 年 10 月 30 日調査)					管財部	自主 点検票	○
	定期点検の義務	14 条第 5 項 規則 8 条の 2 から 7	本館 3 階 薬品庫廃液	2 回／3 年 (平成 27 年 4 月 1 日・10 月 30 日調査)					管財部	自主 点検票	○
麻薬及び向 精薬取締法	平成 29 年度向精 薬試験研究施設 設置者年間届出書	50 条の 5 第 1 項	バルビタール、フェ ノバルビタール、バ ルビタールナトリウ ム、アモバルビター ルの使用、保管	1 回／年 (平成 30 年 1 月 10 日届出)		○		福島 県知事	管財部	届出書	○
核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律	平成 29 年上期核燃 料物質管理報告書	67 条第 1 項 規則 7 条第 20 項	酢酸ウラニル亜鉛 (25g) の保管・管理	2 回／年 (平成 29 年 7 月 7 日・ 平成 30 年 1 月 10 日届出)		○			管財部	報告書	○
毒物劇物取締法	毒物、劇物の安全 管理	11 条第 1 項施行令 第 40 条	毒物 94 品目中 15 品目所有内 2 品目 使用 劇 物 326 品 目 中 48 品目所有内 15 品目使用	1 回／年 (平成 29 年 12 月 4 日確認)		○			管財部	自主 点検票	○
特定化学物質の環境への排出 把握等関係法律 (PRTR 法)	PRTR 対象物質の 安全管理	附則第 3 条	第 1 種指定化学物 質 462 品目中 55 品目所有内 9 品目 使用 第 2 種指定化学物 質 100 品目中 14 品目所有使用無	1 回／年 (平成 29 年 12 月 4 日確認)				年間 1t 以上の使 用の際、 経済産業 省生産産 業局化学 物質管理 課へ届出	化学薬品 取扱者 管財部	調査票	○
原子力発電所の事故により放 出された放射性物質による環 境汚染への対処に関する法律	除染により発生し た埋設汚染土の保 管場所届出書	特別措置法 39 条第 3 項	大学運動場、学生 駐車場、宿泊研修 棟前、高校北側学 園関係者駐 車 場 計 4 か所	除染終了後届出、 埋設状況確認 (随時) (平成 27 年 1 月 27 日届出)		○		郡山 市長	管財部	届出書	○
道路交通法	安全運転管理者の 選任と交通安全教 育の実施	74 条の第 3	安全運転管理者の 選任定員 11 人 以 上の車両 1 台以上、 その他の車両 5 台 以上	平成 29 年度安全 運転管理者等講習 会出席 (平成 29 年 6 月 13 日)			○	福島県 公安 委員会	総務部 車両係	表彰状	○

環境関連法規への違反はありません。なお、関係当局より違反等の指摘は昭和 24 年の設立以来ありません。

Ⅷ. 環境活動結果に関する内部監査及び評価

(1) 内部監査

1. 監査対象	学校法人 郡山開成学園における環境活動	
2. 監査実施日	平成 29 年 11 月 28 日(火) 14:30 ~ 16:10	
3. 監査担当者	内部監査委員／影山 彌、田辺 真弓、学生代表 NLS 部 鈴木 千幸	
4. 監査目的	E A 21 中間審査前 内部監査	
5. 監査項目	1. 更新審査時の B 判定指導事項 3 項目の是正措置の実施状況確認 2. 内部監査チェックリスト（環境経営システム）により確認 3. 内部監査チェックリスト（環境活動レポート）により確認 4. 事務局より 2017 年環境活動計画書の各目標の達成状況と主たる環境活動の報告 5. 大学、短大、高校、幼稚園、家庭寮、及び 図書館 各環境委員より各部門における 2017 年の環境活動についてプレゼンテーション 6. NLS 部 学生の昼食アンケート調査結果の発表 7. 質疑応答、講評	
6. 監査講評	監査委員氏名	講評結果
	影山監査委員	各部門の環境委員がリーダーシップのもと本学の多様な環境活動を実施している事を認識させられた。中でもエコマインドを持った学生、生徒、園児の育成は大変素晴らしいことである。是非このような発表をこの場に留めておくのではなく、学園関係者に環境講演会等を通じて広めてほしい。
	田辺監査委員	毎年内部環境監査に参加しているが、今年は特に各部門が様々な環境活動を実践しており、聞き応えがあった。また、NLS 部の昼食アンケート調査の分析は的確であった。今後も各環境委員の活動に期待したい。
	NLS 部 鈴木	私も NLS 部員として様々な環境活動に参加しているが、高校や幼稚園等でも多様な環境活動をしていることに驚いた。今後も、NLS 部は環境委員会と協力し、環境活動に率先して取り組んでいきたい。

(2) 代表者による全体の取組状況の評価及び見直しの結果

このたび、日本高等教育評価機構の郡山女子大学 大学機関別認証評価報告書では、環境保全において特に優れた点として、再生可能エネルギーの導入など環境問題に積極的に取り組んでおり、「エコ大学ランキング」で上位にランクされるなど、外部の専門機関から高い評価を得ているとの事であった。

又、短期大学基準協会の郡山女子大学短期大学部機関別認証評価結果では、平成 21 年度より「エコキャンパス推進 5 カ年計画」を実施し、平成 27 年度までの 7 年間で約 28% の節電を達成し、平成 26 年度に実施された NPO 法人エコ・リーグによる第 6 回エコ大学ランキングにおいて、「5 つ星エコ大学」を獲得しているほか、サステナブルキャンパス推進協議会主催の ASSC において「ゴールド」の認定を受けているとの評価であった。

更に、EA21 2016 年更新審査において、溝口審査人から学校法人 郡山開成学園は、太陽光発電設備、BEMS、サーキュレーター、エアカーテン、生ごみ処理機を設置、活用して継続的に環境負荷を削減するとともに、家庭寮の実践的生活教育、開成の杜（学校林）生育状況調査、eco 検定受験の推奨等、特徴ある環境教育を推進するとともに、体勢的にも地域貢献を重要な使命と位置づけ、「産学官との連携強化」「地域活性化」「施設の一般開放」を推進する窓口として「地域連携推進室」を設置し、本宮市や JA 福島さくらと包括連携協定を締結し、人的資源や教育研究成果を地域に還元する事に努め、活動の場を学外に拡大しており、学生、生徒、教員による自主的・積極的な活動等、各部門の取組み状況が益々深化している点は十分に評価できるとの事であった。

さて、2017 年エコアクション 21 の取り組みは、1. eco 検定講座の充実では、郡山女子大学エコレンジャー（9 名）のサポートにより、学生 14 名（大学生 4 名、短大生 10 名）及び教員 1 名の計 15 名が eco 検定受験対策講座を受講し、大学生 4 名と教員 1 名計 5 名が第 23 回 eco 検定試験を受験した結果、5 名全員が合格した。2. CO₂ 排出量 1% 以上の削減目標では、春季の寒冷な気象による暖房期間延長となったことから、電気使用量対前年比 + 4.1%、都市ガス使用量対前年比 + 4.7%、LP ガス使用量 対前年比 + 13.6% と軒並み増加し、CO₂ 排出量も + 5.8% の増加となっている。

3. 年間 1% 以上の一般廃棄物削減を目標としたが、リサイクル活動のマンネリ化により、対前年比 + 1.4% の増加となっている。4. 年間 1% 以上の水、紙使用量の削減を目標としたが、それぞれ前年比 + 10.5%、+ 2.3% の増加となっていることから環境負荷の低減について抜本的な対策を考える時期に来ている。5. 地域から愛される学園として、環境分野に関するボランティア活動（どんぐりプロジェクト、ごみゼロキャンペーン、放射線のリスクコミュニケーション事業及び再生可能エネルギー産業フェア）に積極的に参加するとともに、本宮市に加えて、小野町、葛尾村の各市町村並びに、JA 福島さくらに続き、福島民報社等の企業と包括連携協定を締結し、大学、短期大学、附属高校、附属幼稚園において鋭意諸活動に取り組んでいる。

今後とも学園関係者（学生、生徒、園児、教職員及び保護者）の意思統一を図り、エコアクション 21 の取組の充実発展を確実にを行うこととする。

平成 30 年 4 月 30 日
学校法人 郡山開成学園 理事長

関口 修



地球は、わたしたち現世代の人間だけのものではなく、わたしたちの子どもや孫の世代を含む未来のすべての世代の生存に対して責任があるということを認識しましょう。

(世代間公平の考え方より)

